環境ビジョン

カシオは、2050年を見据えた長期的な環境経営方針である「カシオ環境ビジョン 2050」を、2012年4月に制定しました。また、中期的な行動指針である「カシオ環境宣言 2020」を同時に制定し、持続可能な社会の実現に向けてグローバルに活動を推進し、環境先進企業を目指します。

トップコミットメント

小型・軽量・薄型・省電力のモノづくりにより、新しい市場の創造と文化の形成に貢献するとともに、持続可能な社会の実現を目指します

代表取締役副社長　樫尾　幸雄

カシオは、2012年3月に「カシオ環境ビジョン2050」として文字通り2050年を見据えた環境経営の目標を明確にし、活動を推進しています。また　同じ時期に策定した「カシオ環境宣言2020」では、マイルストーンとしての2020年に向けた活動方針を提示しています。これらのビジョン、環境宣言には、カシオとして取り組むべき環境経営における3つの柱（低炭素社会の実現、資源循環型社会の実現、自然との共生／生物多様性の保全）を掲げています。

●低炭素社会の実現
2012年12月の総選挙において、民主党から自民党へ政権が交代し、現在　「エネルギー基本計画」がまとめられています。この中で、民主党政権下で原子力発電の比率を「１５％」とする案も　ゼロベースとして見直すことが決まっています。この「エネルギー基本計画」がまとまり次第、年末のCOP19に向けて、日本国としての温室効果ガスの新たな削減目標が提示される予定となっています。

一方、経団連は、2013年以降の温室効果ガス削減に向けて、2012年までの自主行動計画から　さらに一歩進めて『次期実行計画』として、未達の場合の罰則規定も盛り込んだ削減計画（電機電子業界は、エネルギー原単位で年率１％削減が目標となる計画）をスタートさせることが決まり、カシオグループとして、山形カシオ、カシオ電子工業、羽村技術センターが、参加することとなりました。2020年までに　年率平均１％をエネルギー原単位ベースで削減する必要があり、積極的に取組みを進めていきます。また　製品使用時における電力削減に貢献する製品として、カシオの該当する品目として、「ページプリンタ」による貢献分を算定していくこととなりました。こちらもカーボンフットプリントの動向とも合わせ、算定方法の確立と開示に向けて対応を行っていきます。

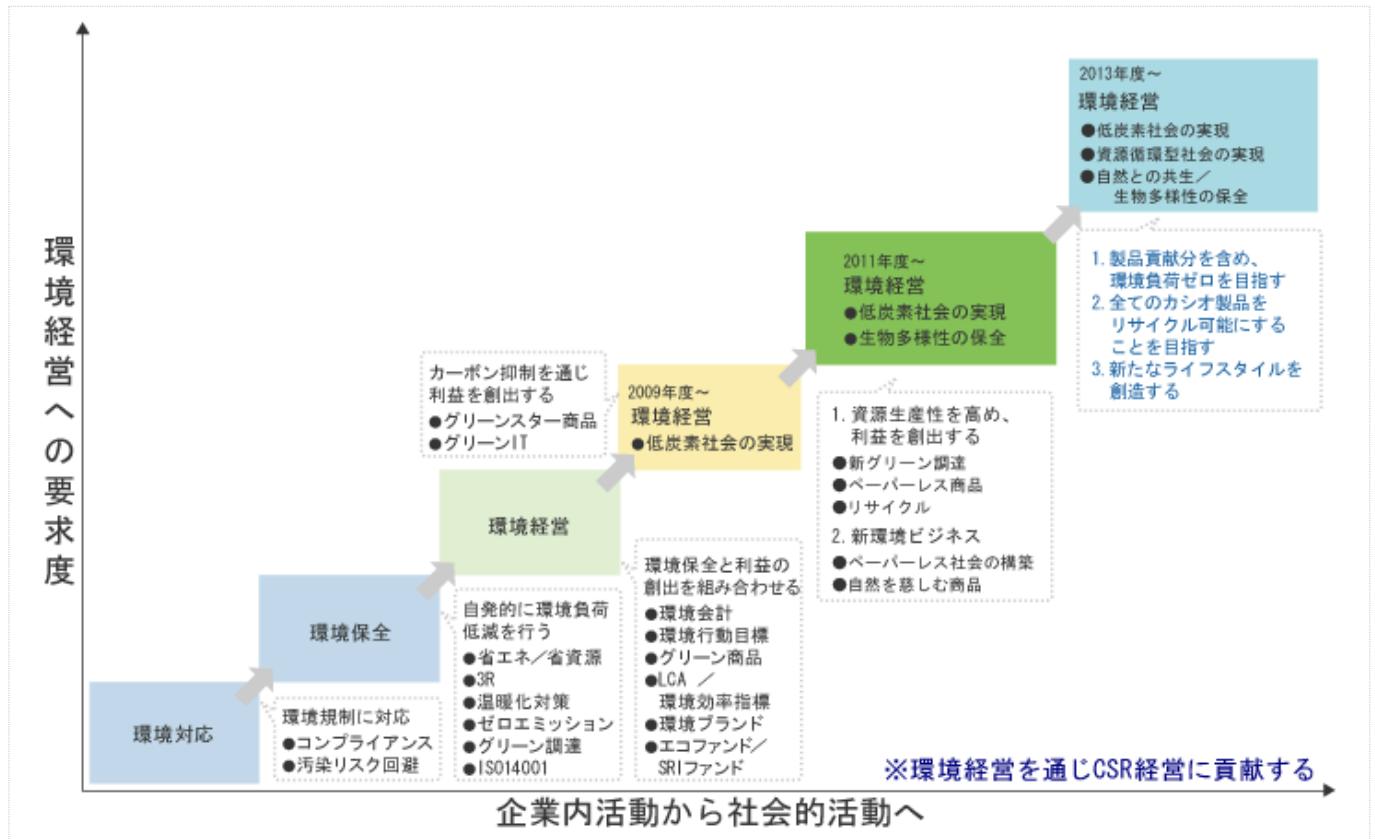
●資源循環型社会の実現
これまで、カシオは、資源有効利用促進法に基づくパソコン、二次電池のリサイクルを始め、ページプリンタのトナー／ドラムセット、ネームランドカートリッジの自主回収に取り組んできました。 さらに今年度からは、レアメタル、貴金属の回収を目的とした小型家電リサイクル制度が法制化され施行となりました。製造業者の責務としては、解体の容易性への配慮と、再生材の利用が求められており、小型家電の対象品目として　コンシューマ向けのカシオ製品のほとんどが該当します。カシオでは、この対応のため、早い時期から複数のリサイクル業者のヒアリング調査を行い、解体から再資源化における小型家電リサイクル処理にかかわる要求レベルをまとめ、製品開発、設計工程での対応にフィードバックをかけ、改善対策を行っています。2013年秋から市区町村、販売店の店頭での回収が本格化していきますが、そこからの情報も分析し再資源化率の向上のためのレベルアップを図っていく計画です。

●自然との共生／生物多様性の保全
カシオは、2011年3月に「カシオグループ生物多様性ガイドライン」を発表しました。その中で、製品にかかわる事業領域　および　事業所、工場での立地における生物多様性にかかわる影響評価の実施を目標に掲げています。この内容に基づき、昨年度はパイロット調査として「紙」にかかわる影響度調査を開始しました。「紙」は、木材を原材料としますが、適正に管理された森林資源からの木材や、再生紙を原材料としていれば問題はありません。カシオ製品に使用されている取扱説明書、カタログ類、また　オフィスで使われている様々な紙製品が、生物多様性の保全に問題の無いことを確認し、今後継続して調査範囲と施策テーマを拡大することで、生物多様性への配慮を行っていきます。

●最後に

カシオを取り巻く環境動向は、広範囲に渡っていますが、カシオとして、独自の環境経営施策を実行することが重要です。小型、軽量、薄型、省電力である製品作りを通じて、また　ペーパーレスを実現する製品を通じて、環境への貢献と共に、カシオブランドの向上を進めていきます。

また　世界規模で環境規制の強化が進んでいます。製品系はもちろんのこと、リサイクルや事業所にかかわるエネルギーへの規制も同様です。グローバルな事業活動を通じて、コンプライアンス順守のための体制の構築／強化を継続して進めていきます。

環境経営の新たな取り組みと方針

2013年度以降は、2015年度に向けて新たに、「カシオ環境ビジョン2050」、「カシオ環境宣言2020」に基づき、資源循環型社会の実現」という柱を追加した3本柱による環境経営を実施していきます。

「低炭素社会の実現」においては、2013年度において、経団連、および電機電子業界の次期実行計画への目標登録、スコープ3、およびカーボンフットプリントへの対応を行います。2014年度には、次期実行計画の着実な推進とともに、スコープ3の範囲拡大、そして2015年度には、カーボンニュートラルを目指していくための施策立案を行います。

「資源循環型社会の実現」においては、2013年度から小型家電リサイクル法施行に対する活動を行うとともに、電子辞書やプロジェクターに続くペーパーレス商品群の拡大を図ります。2014年度には製品貢献によるオフセットという指標の導入を図り、2015年度にはウォーターフットプリントへの対応、さらには新規の環境ビジネスの立ち上げを目指します。

「自然との共生、生物多様性の保全」に関しては、「カシオグループ生物多様性ガイドライン」に基づき、2013年度に生物多様性に対する影響度のパイロット調査を実施し、2014年度には調達における施策を立案し、2015年度には、それまでの状況も踏まえて、生物多様性への影響度を削減する施策を検討して、重要なものから実施していきます。

これらの取り組みを通じ、持続可能な社会の実現と共に、環境先進企業カシオの基盤強化を積極的に進めていきます。

2013年度環境経営方針「持続可能な社会の実現に向けて」

環境先進企業カシオの確立を目指した事業活動と製品貢献を積極的に推進する

1. 低炭素社会の実現
   - 東日本大震災後の環境変化に対し、徹底した節電／省エネ対策を継続する
   - 電機電子業界の低炭素社会実行計画に対するカシオグループ目標の登録
   - 再生可能エネルギー（太陽光パネル）パイロット導入の継続検討
   - スコープ３の把握についての方針策定、開始
   - カーボンフットプリントへの対応
2. 資源循環型社会の実現
   - グリーンスター商品開発：小型、軽量、薄型、省電力技術の強化
   - 電子辞書、プロジェクターに続くペーパーレス商品群の拡大
   - 小型家電リサイクル法への対応
3. 自然との共生／生物多様性の保全
   - カシオグループとしてのガイドラインに基づき、影響度調査を開始し、生物多様性保全のための活動の方向性を決定する
4. 環境経営改善のための戦略立案、推進、社会要請への対応
   - DJSI/CDP/日経環境経営度調査の精査による課題抽出、施策立案、推進
   - 環境報告／環境経営推進体制／資源循環などの改善施策立案、実施

カシオ環境ビジョン 2050　と　カシオ環境宣言 2020

「カシオ環境ビジョン 2050」と「カシオ環境宣言 2020」は、カシオを取り巻く社会状況の変化に対応し、環境経営をさらに進化させていくために、それぞれ「カシオ環境ビジョン」と「カシオ環境宣言」を2012年4月に改訂したものです。

カシオ環境ビジョン 2050

2050年に向けて、カシオグループは、地球の財産である「エネルギー」「資源」「生物」の持続可能な利用と共生について、独自の取り組みを考え、実行します。

新しい価値観やライフスタイルを、今までにない市場や文化として創造し、人々の心の豊かさと健全な地球環境の持続に貢献できる 環境先進企業 を目指します。

環境先進企業・・・「０→１」を生み出すカシオ、その斬新な発想と先進の技術力に基づいた製品やサービスの創造および環境活動を通じて

- 低炭素社会の実現
- 資源循環型社会の実現
- 自然との共生

に貢献していきます。

カシオ環境宣言 2020

2020年に向けた行動指針

1. **低炭素社会の実現**
   カシオグループは、CO_2の削減や吸収に、より一層貢献する製品やサービスを提供していきます。
   また、太陽光・風力・水力などの人と地球にやさしいエネルギーを利用する製品やサービスを拡大していくとともに、これらの再生可能エネルギーを事業活動に取り入れていきます。

2. **資源循環型社会の実現**
   カシオグループは、地球の貴重な財産である物質・材料、水の効率的な利用、代替および再利用を図り、資源生産性をさらに高めていきます。

3. **自然との共生**
   カシオグループは、生物多様性の保全活動を通じて、地球を大切にする心を育み、自然循環と事業活動の調和に取り組んでいきます。